Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
Reference Code: A'.7.1.0.5-2-2

アジア局長
第二課長
第四課長

アジア局第一課

A'4.1.2.5-2

第六五六号
昭和廿八年八月四日

在タイ
特命全権大使 太田一

外務大臣岡崎勝男殿

朝鮮休戦に関するタイ字紙論調に関する件

朝鮮休戦に関する当地新聞論調の大要は夫に電報を以て不取敢御報告致しておいた処当時論陣の振はなかったタイ字紙の内七月卅一日付タイ字紙チャオタイは社説に於て朝鮮休戦に対し大要左記の通りの論評を掲げている。

日本政府在外事務所

アジア局 28.8.19 第一課

8.19 記帳済

記

朝鮮停戦は終戦を意味するものでなく終戦には未だ双方の軍終結に関する種々の協議が必要であるが、現在は平和の敵が消えたと解釈出来る。即ち朝鮮に平和が来る事がほゞ確実と見られるわけである。わがタイ国は国連軍の一環として朝鮮派兵を行い栄誉あるタイ軍を世界に知らしめた。

朝鮮に於ける平和が停戦により招来出来たとしても、世界の他の地域にも平和が来たという意味は毫らさない。

西欧の政治軍事家は共産主義者は決して戦争から手を引く事はないだろうと恐れている。朝鮮戦争以前に発生し現在迄長年に亘つて続いている仏印の独立戦は共産軍の武力に依るものである。

共産側が朝鮮に於て自ら戦争終結に同意した事は将来何処か

日本政府在外事務所

で新しく戦の種をすのではないかと憂慮される。若し上記の観測が真実となつて表はれると仏印はタイ国の門であり、国土は接しているし関係上タイ国に取つては一国の生死に関する重大な事になる或は朝鮮戦争以上になるかも知れない。

然し朝鮮に於て徹底的にたゝかれたならば、そして再び他に力を向ける余裕がなくなればタイ国は初めて満足するわけである。

日本政府在外事務所